

No. 2

事業名	高大連携キャリア形成支援事業
事業の特徴	高校と大学との連携による交流事業（大学生による高校への出前のワークショップ、青少年のキャリア形成）

実施機関名	青森県教育庁生涯学習課
連絡先	〒030-8540 青森県青森市新町2-3-1 TEL 017-734-9888 FAX 017-734-8272 URL <a href="http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e_shogai.html">http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e_shogai.html</a>
事業規模	都道府県（政令指定都市を含む）
事業主体	教育委員会
事業のテーマ分野	キャリア教育、若者のボランティアリーダー養成

## 1 事業の概要

本事業では、平成20～21年度、コミュニケーション等の研修を受けた大学生のグループが、研究協力校として登録した県内12の高等学校を訪問し、高校生と2種類のワークショップをモデル的に実施している。

一つは、2時間ほどの対話形式のワークショップで、高校生が「自分を知り将来について考える」きっかけをつくる場としている（ワークショップ「カタリバ」）。もう一つは、4時間ほどのラベルワークと対話によるワークショップで、高校生一人一人の「本気」を凝縮し、集団全体



ワークショップ「カタリバ」



ワークショップ「アシノコ」

の士気の高揚を図る場としている（ワークショップ「アシノコ」）。

なお、前者は、東京都を中心に活動しているNPO法人カタリバの活動を参考としている。大学生は、ワークショップにおいて務める役割に応じて所定の研修を受講することとしている。

## 2 事業の趣旨、目的

本事業は、本県の次代を担う高校生が、自らの夢の実現に向かって主体的に行動できるよう、年齢が少し上で、親近感があり、頼もしい、「ナナメの関係」にある大学生が、対話を中心とする2種類のワークショップを実施している。

また、これらのワークショップを企画・運営する大学生のスキルを向上させるために、各種研修会を実施し、修了者をキャリアサポーターとして認定しており、大学生にとっては、研修とワークショップに参加することが、コミュニケーションやプレゼンテーション等のスキルを向上させるとともに、自らを見つめ直し、現在や将来の自分を考える機会となっている。

## 3 事業の内容

### （1）学習の内容

#### ① コミュニケーション・コーチング研修

コミュニケーション・コーチング研修は、大学生がワークショップ「カタリバ」に参加し、高校生と直接対話するための基本的な研修である。

コミュニケーション研修は、「心のシャッターを開ける」「聴き上手になる」「気持ちを伝える」等のスキルを身につけることができるよう、アイスブレイクや演習を取り入れた内容としている。

コーチング研修は、「聴いて受け止める」「質問して相手の中にある答えを引き出す」等のスキルを身につけることができるよう、リフレミング等の演習を取り入れた内容としている。

#### ② プレゼンテーション研修

プレゼンテーション研修は、大学生がワークショップ「カタリバ」において、体験談を話すために必要な研修である。

話を組み立てる技法や演出効果を高める技法を身につけることができるよう、実践的内容で実施している。また、実際にワークショップ「カタリバ」で話す体験談の設計も行っている。



アイスブレイク演習



人前で話す演習

### ③ファシリテーション研修

ファシリテーション研修は、大学生がワークショップ「アソコ」に参加し、ファシリテーター役になるために必要な研修である。

このワークショップはTKJ法と呼ばれる、ゲーム感覚で楽しみながら参加できるラベルワークであり、この中で高校生同士の活発な意見交換を促すための基礎と技法を身につけることができるよう、演習を中心とした内容としている。



TKJ法演習

これらの研修の他、ワークショップ実施前にはリハーサルを、ワークショップ終了後には、反省会を実施し、企画・運営方法、高校生とのコミュニケーション等について振り返りの学習をしている。

#### ◆研修の実績（2か年の合計）

研修の種類	開催地区			計(回)	参加数(人)
	青森	弘前	八戸		
①コミュニケーション・コーチング研修（6時間）	13	14	6	33	256
②ファシリテーション研修（6時間）	4	5	1	10	84
③プレゼンテーション研修（6時間）	4	3	1	8	64
合 計				51	404

#### （2）学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

大学生は、上記の研修を受けてキャリアサポーターに認定された後、ボランティアとして高校生とのワークショップに参加している。ワークショップを実施する高校毎に、チーフディレクター、アシスタントディレクター、クルーからなるプロジェクトチームを編成し、打合せやリハーサルを経てワークショップを実施している。

この事業に登録した大学生には、「大学生研修及び実践活動の記録」手帳を配布し、研修受講の際とワークショップに参加した際にスタンプの押印を行っている。すべての研修を修了し、ワークショップに5回以上参加した者には、マイスター研修を経て、キャリアサポートマイスター認定証を交付し、大学生研修等において指導的な役割を担う仕組みとなっている。

この2か年で、256名の大学生が研修を受け、キャリアサポーターとして認定されている。このうち、ワークショップに参加したキャリアサポーターは195名である。

参加大学生の募集については、各大学に働きかけているが、大学生個人のつながりによる勧誘等も大きなウェイトを占めている。

◆ワークショップの実績（年度別）

	平成20年度	平成21年度
実施回数	14回（12校）	17回（13校）
参加高校生延べ人数	1,486名	1,929名
参加大学生延べ人数	363名	493名



キャリアサポートマイスター



キャリアサポーター

（3）推進体制等の仕組み

県事業として、「高大連携キャリア形成支援推進協議会」、「地区実行委員会」、「プログラム作成連絡会議」、「大学生会議」等の開催により推進体制を整えてきたが、これとは別に、参加大学生は、それぞれの大学でサークルを作るとともに、個々の大学の枠を超えた人的ネットワークを築きつつあり、今後の実施に向けた体制づくりに努めている。

4 成果と今後の取組

ワークショップ後の高校生のアンケートでは、「有意義だった」、「これからの自分（将来の目標等）について考えることができた」という回答が9割を超えており、「ナナメの関係」による高校生の意欲喚起の試みは成果を収めつつある。

一方、大学生も、研修の成果をワークショップの現場で十分に生かしているが、ワークショップを体験することでさらに自分自身のスキルアップの必要性を感じる大学生も少なくなく、反省会では、「もっと自己研さんが必要」という声が出ている。

今後、この取組を進めていく上では、大学生がサークル単位もしくは個人で自主的に研修を行っていく必要があり、県としてどのように支援していくかが課題となっている。

【執筆者の職・氏名】青森県教育庁生涯学習課 指導主事 土岐 潤子